

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, September, 2006

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

9月の状況 (佐藤)

C/2006 M4 (SWAN)

先月の月報で、「緯度の高い観測者の方が有利である」といったが、海外の彗星メーリングリスト (comets-ml) に投稿した英国北アイルランドの Martin Mc Kenna によれば、英国 Man 島の David Storey が 9月 15日、8.0 等と捉え、Mc Kenna 自身は 9月 16.25日 (BST: 英国夏時間) に 7.5 等、dia 3、DC 6、[8.5" (21.6cm) F/7 Dobsonian 40mm eyepiece (×38)] と捉えた。

台風 13号の影響で日本からはまだ観測されていなかったが、その後、眼視観測では、ポーランドの Piotr Guzik (10×50 双眼鏡) が 9月 16日の朝方、7等、強い集光ありと観測した。また、Don Machholz が 9月 17.5日 UT、自作の 13cm 双眼鏡 ×29 で 7.2 等、DC 6、コマは薄明で全ては見えていないため報告なし、尾見えず。と報告した。

CCD 観測では、Fernando Lopez (J63) が 9月 17.2日 UT、核光度 10.2 等と観測した。

国内では、埼玉県上尾市の門田健一氏が 9月 18.81日 UT、CCD 観測に成功し、oaa-comet メーリングリスト (以下 oaa-comet ML) で、「望遠鏡を向けると、超低空で明るい恒星らしき像が写ったので、視野が間違っていると思って、再度導入してみると、また同じところに恒星像?? なんと、それは彗星の集光部でした。コマの視直径 3.5 分角で、集光が極めて強く、丸くて明るい姿です。北北西の方向に、幅が狭くて淡い尾が延びています。」と報告し、更に「Sept. 23 の画像では、火の玉のようにカッと集光したコマは 7 分角ほどでドカンと強烈に大きく、北北西に延びる尾は 17 分角以上の長さで視野を飛び出し、途中でくねりながら複雑にねじれているようです。」と報告している。

また、高知市の下元繁男氏も、9月 23.84日 UT に観測し、oaa-comet ML に「薄明の低空で、比較星が 4 つしか取れなかったので精度が心配です。尾はほとんど無く、コマが北北西にわずかに引っ張られているという印象です。」と報告した (写真 a)。

眼視では、山口県柳井市の吉本勝己氏が 15cm 反射 ×180 で、9月 19.83日 UT、全光度 8.1 等、dia 3.6、Tail 14 p.a. 335° と観測した。

その後海外では、9月 30.10日 UT に、スロベニアの Tibor Csörgei が 35cm 反射 ×75 で、m1 5.3、Dia. 5.0、DC 6 と観測している。

オーストリアの Michael Jäger と Gerald Rhemann が撮影した 9月 24日前後の画像にはイオンテイルのほかダストテイルが写っている (写真 b)。

報告された C/2006 M4 (SWAN) の眼視観測は次のとおり。

2006	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Sept.	22.80	7.2	2	7	-	-	2/5	3/10	25×10cmB	佐藤裕久	薄明中
	27.80	6.3	8	7/	-	-	-	-	10×5cmR	吉田誠一	
	27.81	6.4	6	7/	-	-	-	-	36×40cmL	"	



(写真 a) C/2006 M4 (SWAN) 2006,09,24
5h 12m (JST) exp.20s 20cm SCT + CCD
高知市 下元繁男氏



(写真 b) C/2006 M4 (SWAN) 2006,09,24
3h 05m(UT) 210s x4 20cm Schmidtcamera + CCD
© 2006 Michael Jäger + Gerald Rhemann



(写真 c) C/2006 M4 (SWAN) 2006,09,30
3h 05m(UT) 130s x2 RGB 25cm Schmidtcamera + CCD
© 2006 Michael Jäger + Gerald Rhemann



(写真 d) 4P/Faye 2006,09,24
0h 40m(UT) 600s x4 RGB 20cm Schmidtcamera + CCD
© 2006 Michael Jäger + Gerald Rhemann

177P/Barnard 2

相変わらず拡散状でだいぶ暗くなっており、吉田誠一氏は 9 月 27 日の観測について oaa-comet ML で「暗くなったようで、低倍率では良く分かりません。中心部は確かに集光していますが、周囲はかなり淡く大きく広がっているので、すっかり拡散しているような印象です。」と報告している。

177P/Barnard 2 の眼視観測は次のとおり。

2006	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Sept.	1.60	9.5	3	3	-	-	3/5	8/10	24 × 17.5cmL	関 勉	
	20.51	11.2	8	2	-	-	4/5	3/5	60 × 20cmR	"	
	22.48	11.0	2	3	-	-	4/5	7/10	25 × 15cmB	宇都宮章吾	
	22.60	11.5	5	2	-	-	3/5	3/5	60 × 20cmR	関 勉	
	23.53	11.7	-	-	-	-	-	-	60 × 20cmR	"	
	25.53	12.0	-	-	-	-	-	-	60 × 20cmR	"	
	27.48	10.5	3.0	2	-	-	-	-	75 × 40cmL	吉田誠一	

発見彗星は次のとおり。

P/2006 R1 (Siding Spring)

9月 1.49日 UT、R. H. McNaught は、Siding Spring サーベイのコース上に M. Burton が 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得たイメージから少し拡散した 10 のコマのある彗星を発見した。(IAUC 8744, 2006 Sept. 2)

その後の観測から 13.3 年の短周期彗星であることがわかった。

P/2006 R2 (Christensen)

9月 14.32日 UT、Eric J. Christensen は、Catalina Sky Survey の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た 30 秒×4 枚の CCD 画像から 15 のコマと p.a.300° に短い尾のある彗星を発見した。8 年余りの短周期彗星であった。(IAUC 8748, 2006 Sept. 15)

P/2006 S1 (Christensen)

9月 16.25日 UT、Eric J. Christensen は、Catalina Sky Survey の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像から 15 の良く集光したコマと p.a. 245° に 2 の尾があるもう一つの彗星を発見した。6 年余りの短周期彗星であった。(IAUC 8749, 2006 Sept. 17)

C/2006 S2 (LINEAR)

9月 17.17日 UT、LINEAR プロジェクトによって発見された小惑星状の天体が NEO Confirmation Page に掲載後、彗星であることが確認された。(IAUC 8750, 2006 Sept. 19)

C/2006 S3 (LONEOS)

9月 19.32日 UT、B. Skiff により、LONEOS (0.59-m LONEOS Schmidt 望遠鏡)によって彗星の発見が報告された。NEO Confirmation Page に掲載後、E. J. Christensen などの観測者によって彗星であることが確認された。(IAUC 8752, 2006 Sept. 21)

近日点通過日は 2012 年 4 月頃とまだだいぶ先である。近日点距離が 5 天文単位と遠く、その頃の光度はせいぜい 12 等ぐらいである。

P/2006 S4 (Christensen)

9月 22.37日 UT、Eric J. Christensen は、Catalina Sky Survey の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像からもう一つの彗星を発見した。(IAUC 8753, 2006 Sept. 23)

その後の観測から 15 年余りの短周期彗星であることがわかった。

C/2006 S5 (Hill)

9月 28.28日 UT、Rik E. Hill は、Catalina Sky Survey の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像から南西に約 10 の尾のある彗星を発見した。(IAUC 8755, 2006 Sept. 29)

P/2006 S6 (Hill)

9月 28.40日 UT、Rik E. Hill は、Catalina Sky Survey の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像から西南西に約 10 -15 の尾のあるもう一つの彗星を発見した。8 年余りの短周期彗星であった。(IAUC 8755, 2006 Sept. 29)

C/2006 OF₂ (Broughton)

7月 17.66日 UT、John Broughton (Reedy Creek、クイーンズランド州、オーストラリア、0.25-m 反射) が小惑星状天体として発見し 2006 OF₂ と仮符号がつけられた天体が、9月 20.11日 UT、Catalina の 1.54-m 反射で得られた画像から C. W. Hergenrother によって 7 の集光あるコマ、光度 18.2 等、尾のない彗星であることがわかった。(IAUC 8756, 2006 Sept. 29)

その他比較的明るい彗星は、4P/Faye (写真 d)、71P/Clark などであった。